

西耳鼻咽喉科 便り

一人ひとりにあった治療法を提案して、患者さんのお困りごとを解決することを目指しています。

ヘルパンギーナとプール熱

子供がかかりやすい夏風邪の代表が「ヘルパンギーナ」と「プール熱」です。通常は安静にしていれば回復しますが、水分補給など適切な処置を行わなければ悪化する可能性があります。

どちらもウイルスによる感染症で、夏に多くみられ、のどの痛みや発熱など、風邪と似たような症状があらわれることから、いわゆる“夏風邪”としても知られています。いずれの病気も予後は良好なことが多いのですが、まれに重症化することもあるので油断は禁物です。



●ヘルパンギーナ●

ヘルパンギーナは、毎年5月から8月頃にかけて流行します。原因の多くは、「エンテロウイルス」と呼ばれるウイルスです。そのウイルスの中でも、「コクサッキーウイルスA群」による感染が最も多く見られます。咳やくしゃみなどによる飛沫感染や、唾液などがついたおもちゃや手指などからの接触感染で罹患します。主な症状としては「発熱」のほか、「のどの奥に水泡ができて赤く腫れ、強い痛みが出る」などがあげられます。わずかなケースですが、重症化し、髄膜炎や心筋炎を起こすことがあるので注意が必要です。

●プール熱●

プール熱は「咽頭結膜熱」とも呼ばれる病気で、1年を通じてかかる病気ですが、6月頃から増え始め、7~8月にピークを迎えます。プール熱は、「アデノウイルス」に感染することによって発症します。感染経路は咳やくしゃみなどによる飛沫感染、タオルの共有や手指を介した接触感染です。プールでも塩素濃度が不十分な場合は感染することがあり、目の結膜からウイルスが侵入することがあります。プールの水を介して流行することがあるため、プール熱と呼ばれています。代表的な症状は「高熱」や「咽頭炎による喉の痛み」、「目が赤くなる結膜炎」の3つです。

どちらも特効薬はなく、どちらも対症療法が中心となります。方法としては、解熱剤で熱を一時的に下げたり、脱水症状を防ぐために経口補水液などで水分補給を行います。ヘルパンギーナは、通常、1週間程度で治癒します。プール熱も、おおよそ1~2週間で回復します。プール熱で結膜炎の症状が強い場合は、目薬が処方されますが放置すると感染が広まったり、ときには重症化することもあります。子供に発熱やのどの痛みなどの症状があらわれ、つらそうなときは、なるべく早めに医療機関で診察を受けてください。どちらもワクチンがないため、予防が第一です。感染者との接触を避けることに加え、うがいや手洗いをしっかり行いましょう。手洗いをするときは、流水でしっかり洗い流すことが感染を防ぐポイントです。また、タオルや箸などの共有を避け、感染者が触れたものはよく洗い流し、消毒してください。